

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	五十嵐 靖博 (いがらし やすひろ)	所属	山野美容芸術短期大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 批判心理学研究会による日本発達心理学会第 23 回大会におけるラウンドテーブル「ドイツ批判心理学の可能性－歴史・概念・方法をめぐって－」		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 36 名 (うち認定心理士 5 名) 非会員 4 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>●日本発達心理学会第 23 回大会におけるラウンドテーブル タイトル：ドイツ批判心理学の可能性－歴史・概念・方法をめぐって－ 企画：公益社団法人日本心理学会 批判心理学研究会 司会：いとうたけひこ (和光大学) 話題提供：百合草禎二 (富士常葉大学) 指定討論：五十嵐靖博 (山野美容芸術短期大学), 森岡正芳 (神戸大学), 加藤弘道 (静岡大学) 成果：わが国におけるドイツ批判心理学に関するこれまでで最も詳細な報告となった。Klaus Holzkamp の心理学の実際とその可能性が討議された。</p> <p>●また、日本心理学会第 75 回大会において下記のワークショップを実施した。 タイトル：批判心理学とは何か－臨床心理学の視点－ 企画：公益社団法人日本心理学会 批判心理学研究会 司会：いとうたけひこ (和光大学), 岩男征樹 (東京工業大学) 話題提供：五十嵐靖博 (山野美容芸術短期大学), 百合草禎二 (富士常葉大学), 鈴木聡志 (東京農業大学), 田辺肇 (静岡大学) 指定討論：森岡正芳 (神戸大学), 白井利明 (大阪教育大学) 成果：日本の臨床心理学者の立場から批判心理学の可能性が論じられた。</p> <p>●上記を含め、研究活動の成果を『心理科学』誌の批判心理学特集号として刊行した (第 32 巻第 2 号)。特集号に掲載された論文のタイトルと著者は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・批判心理学とは何か：現代批判心理学運動と日本における可能性 五十嵐靖博 ・クラウス・ホルツカンブと《ドイツ批判心理学》 百合草禎二 ・批判心理学の研究方法论：Osterkamp の実証研究に依拠して 白井利明 ・批判心理学の方法としてのテキストマイニング：変数心理学に対するオルタナティブ <p>いとうたけひと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育臨床の批判心理学的再構成 加藤弘通 ・批判心理学的視点による実証研究のあり方の検討：批判心理学的視点から量的調査を行う意義 大久保智生 ・批判心理学は何を批判しているのか 岩男征樹 <p>本特集号はわが国における批判心理学に関する初めての学術論文集である。</p>		